

平成29年度 事業報告

《 法 人 》

1 重要な決議事項の経過

(1) 理事会・評議員会

平成29年 5月29日（月） 理事会

場 所 みずほの里 大会議室

協議事項 社会福祉充実残額の算定及び定時評議員会の招集について
平成28年度 4次補正収支予算について
平成28年度 事業報告及び収支決算について
監査報告
役員等報酬規程の承認について
給与規程の一部改正について
職能資格制度規程の一部改正について
職群規程の一部改正について
昇格規程の一部改正について
一般職群職員取扱要綱の一部改正について
臨時職員取扱要綱の一部改正について
みずほの里空調設備更新工事契約の承認について

平成29年 6月14日（水） 定時評議員会

場 所 みずほの里 大会議室

協議事項 社会福祉充実残額の算定について
平成28年度 4次補正収支予算について
平成28年度 事業報告及び収支決算について
監査報告
役員等報酬規程の承認について
理事及び監事の選任について

平成29年 6月14日（水） 理事会

場 所 みずほの里 大会議室

協議事項 理事長の選出について
理事等職務権限規程の一部改正について

平成29年12月26日(火) 理事会

場 所 みずほの里 大会議室

協議事項 理事長等職務の執行状況報告について
経理規程の一部改正について
育児休業等規程の一部改正について
介護休業等規程の一部改正について
給与規程の一部改正について
職務規程の一部改正について
継続雇用制度実施規程の一部改正について
奨学貸付金規程の一部改正について
臨時職員取扱要綱の一部改正について

平成30年 3月12日(月) 理事会

場 所 みずほの里 大会議室

協議事項 理事長等職務の執行状況報告について
評議員会の招集について
平成29年度 1次補正収支予算について
理事等職務権限規程の一部改正について
平成30年度 事業計画について
平成30年度 収支予算について
就業規則の一部改正について
理事の退任及び選任について
旅費規程の一部改正について
理事会運営規程の制定について
評議員会運営規程の制定について
法令遵守管理規程の制定について
利益相反行為等に関する規程の制定について
公益通報者保護に関する規程の制定について
臨時職員取扱要綱の一部改正について

平成30年 3月28日(水) 評議員会

場 所 みずほの里 大会議室

協議事項 平成28年度 1次補正収支予算について
平成30年度 事業計画について
平成30年度 収支予算について
理事の退任及び選任について

(2) 経営会議（月1回）

理事等職務権限規程が定める理事担当業務の進捗状況管理や法人経営に関する事項の検討協議を実施した。

2 理事長が専決した契約の内容（決裁金額が500万円を超える物件等）

(1) みずほの里給湯設備改修工事

地下温水管破損による漏水により、経理規程第74条第1項第3号の入居者への影響及び機材等の確保など緊急の必要により、競争入札に附することができない理由から現保守契約先と随意契約の締結を実施した。(施工完了日 11/23)

3 事業運営上生じた重要案件

運営上生じた重要案件なし。

4 監事監査、法人一般指導監査及び実地指導等における指摘事項

(1) 監事監査 5/11（会計・業務監査）、9/20（任意業務監査等）

(2) 法人監査 法人（1/25）

専決事項の範囲を超える額の理事会承認に関する事項への指導。

(3) 実地指導 みずほの里（長期、短期 10/18）、（認知症デイ 10/26）

ひいなの里（長期 12/22）

上記、施設実地指導における大きな是正事項等なし。

5 法人事業報告

(1) 経営基盤の安定

平成29年度における事業収入は適正な稼働確保により、当初予算対比100.8%、前年度対比103.7%となった。費用等は石油等製品の値上げ等があったが、職員の実採用が減少したため当初予算対比98.7%、前年対比99.6%と推移、経常増減差額は当初予算対比130%、前年対比194%と経営基盤の安定につながった。

また、改正社会福祉法による新体制の基、法令遵守・組織統治、財務管理、人事労務管理、リスク管理、人材教育研修管理、地域公益管理、介護サービス管理など理事の担当業務制による進捗管理に努めた。

(2) 施設整備

各施設とも修繕計画に沿って施設の保全に努めた。平成29年度は、施設における空調設備に係る冷温水発生機及び地下温水管の大規模改修工事など経年劣化や耐用年数を超過する設備等の修繕などを施工した。

次年度以降の設備更新についても事前に状況を把握し更新計画を策定した。

(3) 法人本部事務局体制の確立

法人組織体制の強化や経営企画室による法人経営に係る諸課題を検討、第7期介護保険事業計画への新規事業の提案や所轄外の行政関係者と勉強会等を実施した。

法律改正に伴う諸規定の一部改正を実施並びにコンプライアンスに関する諸規程を制定し内部管理体制の強化に努めた。法人本部主導での大口取引業者とのサービス検討会や介護保険改正に係る検討会などを実施した。

(4) 人材育成

法人教育方針及び年間計画のとおり、新人職員研修会や階層別研修会として中級研修・上級研修・管理職研修を実施した。また、法人本部主催として外部講師を招聘し、係長職以上の管理職向け経営研修会を実施、経営者層のマネジメント力向上に努めた。

昨年に引き続き山形県労働局委託事業「雇用管理改善促進事業」を受託し、外部の社会保険労務士による人事考課講習会（考課者研修）を開催した。

(5) 選ばれる施設・選ばれる職場

職員一人ひとりのワークライフバランスに配慮した多様な働き方への転換制度の利用促進や両立支援委員会による子の看護休暇取得促進など環境支援を実施、ハローワーク山形と協働で施設見学会等を開催し東北初となる働く母親の支援としてマスメディアからも取り上げられた。

介護職員の資質向上を図るため、介護職員実務者研修対象者5名へ奨学貸付制度を活用し受講費用の一部貸付を実施した。

(6) IT化推進

ホームページやソーシャルメディアネットワークなど有効に活用し、写真や動画による可視化を図り定期的な法人情報や求人情報等を公開した。また、法令に従い法人の財務状況や定款、現況報告等を公開した他、3拠点間のデータ通信環境、機器及び端末管理に努めた。

また、事業計画のとおり IOT・介護ロボット等（みずほ・ひいな）を補助事業により導入した。

(7) 社会福祉法人としての公益的な取組みの検討

理事の担当業務として法人地域貢献委員会を開催し、拠点における公益的な取組みの推進や進捗管理を行った。また、社会福祉法人として低所得者への利用者負担軽減制度を各拠点で実施、認知症カフェの開催や就業支援などを実施した。

例年通り、関係機関と連携して行政が主催する介護保険事業運営協議会、在宅医療連携推進会議、地域包括支援に関するネットワーク会議、地域包括ケアシステムの構築に向けた会議等に積極的に参画した。

また、地区会・民生児童委員等と連携し、地域高齢者会食会・家族介護教室・認知症サポーター養成講座・夏祭りを開催する他、地域行事・資源回収等への参加を通して支援活動の充実と地域住民との交流を図った。

山形県の登録研修機関として喀痰吸引等研修会を実施し、法人職員以外の受入を積極的に行い地域における介護人材の育成に努めた。

平成29年度 リスクマネジメント報告

施設名： みずほ／ひいな／ながすず

区 分	分 類	件 数	
報告内容	利用者に関すること	転倒転落	339
		誤嚥	4
		誤薬	27
		外傷・熱傷	354
		離施設	25
		異食行為	26
		破損等	56
		骨折	14
		その他	171
		小計	1,016
	施設経営に関すること	法令規制	0
		競争環境	0
		事業戦略	0
		資金調達	0
		保証債務	0
		損害賠償	0
		サービス	0
		個人情報	0
		人材確保	0
		人材教育	0
労働安全	6		
その他	0		
小計	6		
計	1,022		
損害保険	上記中、損賠保険対象となった案件	12	
その他	上記中、解決の見込みのない案件	0	
	()	0	

平成29年度 苦情受付結果

施設名： みずほ／ひいな／ながすず

区 分	分 類		件 数
受付内容	サービス支援等に関すること		7
	食事に関すること		0
	医療に関すること		0
	環境等に関すること		0
	利用者間に関すること		3
	金銭管理に関すること		1
	職員の処遇等に関すること		4
	その他		2
	計		17
処理内容	解 決	苦情解決責任者、受付担当者との話し合い又は苦情内容の改善解決	16
		第三者委員又はその他の方法での解決	1
	話合い継続中		0
	今後、改善を要する		0
	計		17

《 みずほの里 》

1 経営基盤の安定

長期入所平均稼働率96.0%(前年95.8%)、短期入所平均稼働率98.6%(前年98.0%)、大規模型デイ平均稼働率85.8%(前年86.3%)、認知症対応型デイ平均稼働率70.9%(前年69.2%)、GH平均稼働率98.9%(前年98.4%)、居宅介護担当確保1,538件(前年1,517件)となった。長期入所は上半期の体調不良等による利用率の低下や入退所者数の増加による空床期間の増加のため目標稼働率は未達となったが前年度稼働率を上回った。短期入所、認知デイ、GH、居宅については新規契約者が前年より増加しており、ほぼ計画通りに推移し目標稼働率を達成することができた。大規模型デイサービスは、新規契約者を契約終了者が上回る状況であり、目標稼働率が未達となった。

2 施設整備

下半期に、給湯設備改修工事、給湯設備改修工事および食器消毒保管庫の取り換え工事を実施。また、年間を通し経年劣化による建物、電器、設備機器の修繕を行った。

3 人材育成

ケアマネジメント、接遇、認知症ケア、記録各部会で日常ケア及び業務の課題を検討し実践に繋げており、ケアマネジメント部会ではケアのヒント集を作成した。今後の現場指導に活かしていく予定である。また、平成29年度もキャリア段位の取り組みを行い、2名の職員が終了レベル取得者となった。そのほか、法人事業所間の交換研修、2～3年目職員研修、パート職員の研修も実施した。

4 選ばれる施設・選ばれる職場

介護職員の負担軽減、安心できるケアの提供のため、介護ロボットの導入を積極的に行った。国と県の助成事業に応募し採択された見守りロボット(眠りスキャン)とリクライニング車椅子機能付きベッド(リショーン)を導入し調査検証を行った。

在宅部門において自立支援に向けた介護の取り組みを推進し、機能訓練の定着がみられた。長期入所における自立支援活動では、安定した水分量の摂取、活動量の増加につながり脱水予防等にも効果があった。

奨学貸付金を1名の職員が利用し、介護福祉士資格取得へつなげた。

5 みゆき会グループ、自治体、他関係機関との連携の推進

相談員と居宅介護支援部門がグループ内での定期的な勉強会や情報交換を実施した。その他の関係機関との連携も同様に行った。

6 社会福祉法人（施設）としての公益的取組の検討

社会福祉法人の公益的取組みとして、利用者負担軽減事業を8名の利用者に対して実施した。その他、夏祭りや各委託事業、ミュージックケアや理学療法士による体操（高齢者サロン）等各種講座の依頼を受け職員を派遣し、地域住民とのつながりを持ち施設の持っている資源を地域に還元した。また、市内3事業所から受講者を受入れての喀痰吸引等の研修や認知症研修、各種学校の実習生の受入も積極的に行った。

《 ひいな の 里 》

1 経営基盤の安定

長期入所平均稼働率 96.8% (前年 98.5%)、短期入所平均稼働率 95.4% (前年 92.3%)、通常規模型デイ平均稼働率 87.5% (前年 85.7%)、認知症対応型デイ平均稼働率 61.4% (前年 59.2%)、居宅介護担当確保 1,030 件 (前年 1,109 件) となった。長期入所は例年より逝去者、入院者等が多く稼働率が低下、目標に届かなかった。短期入所は年間通して高稼働を維持、目標を達成できた。また、長期入所の空床利用により長期入所の低稼働をカバーできた。通所介護、認知症対応型通所介護は、前年度より稼働率の改善ができたが、体調不良による当日キャンセルが多く発生し目標に届かなかった。居宅は新規介護認定者の減少で逝去や特養へ入居された方の契約者減を補うことができず目標に届かなかった。

2 施設整備

開設 10 年以上経過し、毎年同じような建物・設備における不具合箇所が出てくるようになり、今年度もエアコン、汚物除去機、給湯器、特殊浴槽の修繕等を実施した。平成 30 年度は共有部のエアコンの更新を計画しているが、以降他設備等の更新も計画的に実施する必要がある。

3 人材育成

新卒者 1 名、介護未経験者 1 名、専門職 1 名が入職した。エルダーにより、介護の具体的な方法や接遇、記録の仕方、利用者体験等基礎からきめ細かく指導を実施した。指導者にとっても自己を振り返る良い機会となったほか、新入職員と指導者間の信頼関係も構築できた。

また、昨年度に引き続き介護職員の資質向上を目的に、介護キャリア段位制度活用に向けアセッサーを 1 名養成した。現在キャリア段位取得者を養成中である。

外部研修の活用推進として、積極的に外部研修へ派遣し専門的知識を学ぶ機会を多く設けた。学ぶだけでなく他事業所職員との交流や関係作り、情報収集の場としても活用できた。内部研修では、職員のニーズに合ったテーマにすることで出席率の向上やスキルアップ、モチベーションアップにつなげた。

4 選ばれる施設・選ばれる職場

事業所毎に独自のパンフレットを作成し、事業所のコンセプトや利用時のイメージがわかりやすい物にした。また、他居宅介護支援事業所から依頼のあった困難なケースでも施設内関係各部署が連携し極力受け入れるよう努めた。

また、法人ホームページスタッフブログを活用し、施設の情報や活動等について積極的に情報発信をした。

5 IT化推進

法人ホームページのスタッフブログを積極的に活用し、事業所毎の活動状況や各種情報の発信し施設の広報に努めた。介護ロボットについては、長期入所個別浴槽2ヶ所に昇降機を設置、利用者の不安軽減や職員の負担軽減に繋がった。

6 みゆき会グループ、自治体、他関係機関との連携の推進

相談員部門・居宅介護支援部門等でみゆき会グループの定期的な研修会に参加したほか、紅寿の里で実施している喀痰吸引等研修も受講した。運営推進会議等の開催により、地域や行政など関係機関との連携を図った。また、ひいなカフェを介してより多くの関係機関と連携することができた。近隣の認定こども園との交流活動も定期的に行い良好な関係を維持できた。

7 社会福祉法人としての公益的取組の検討

地域交流ホールを活用し、ひいなカフェ（認知症カフェ）を開催。外部講師による講演、福祉用具の展示説明会、季節ごとのイベントを実施することで多くの方から利用してもらうことができた。また、来年度の事業として一人暮らし等の高齢者を対象とした会食会の開催を検討し、地域の方々との調整を行った。地域の一員として要害地区の資源回収や花植え活動に利用者と一緒に参加した。

《 ながすずの里 》

1 経営基盤の安定

特養平均稼働率98.8%(前年97.1%)、グループホーム平均稼働率97.9%(前年97.6%)、小規模多機能平均登録稼働率96.1%(前年95.9%)、居宅担当確保数(介護予防込)981件(前年820件)となった。特養は1年以上退居者がなく、高稼働になった。グループホームも前年を上回って目標を達成し、新規申し込みも増えた。小規模多機能は目標の登録者数27.5名を超える28.6名の平均登録者数となり、安定した登録者数となった。特に下半期以降はほぼ登録定員を満たす稼働となった。居宅は介護支援専門員を1名増員して3名体制としたが、順調に担当件数が伸びた。

2 施設整備

空調設備のメンテナンスを行った。ユニット内外に家具や生活道具を配置し、また、ソファを増設するなど、生活環境づくりに努めた。地域交流ホールにおいて、かみのやまカフェ(認知症カフェ)を開催し、地域住民、施設利用者ともに楽しめる場所づくりに努めた。

3 人材育成

定期的な内部研修と積極的な外部研修派遣を行った。法人内の他施設実習に職員7名が参加し、他事業所と交流しケアのヒントを得て業務につなげた。新人への対応として、エルダーによる指導を継続して行った。介護プロフェッショナルキャリア段位制度評価者を新たに1名が取得し、介護力向上に努めた。山形県グループホーム大会や山形県老人福祉施設協議会・生活相談員研究会で人材育成の取り組みについて発表し、山形県認知症ケア専門士会研修会で事例提供を行った。

4 選ばれる施設・選ばれる職場

平成29年4月より特別養護老人ホームに常勤専従の機能訓練指導員を1名配置してケアの充実を図り、運営面にも成果が表れた。また、継続して29年度も喀痰吸引等研修へ3名の受講者を出し、要介護重度者へ備えた。認知症ケアへの取り組みとして認知症介護指導者研修の修了者1名、認知症介護実践者研修の修了者1名を出し、ユニットごとのケア理念作りに取り組んだ。奨学金貸付制度を職員4人が活用し、職場で受験勉強会を開催するなど資格取得をサポートして4名が介護福祉士資格試験に合格した。この他、レクレーション介護士2級、キャラバンメイト、初級リスクマネージャー、防災士等の資格取得を図った。定期的に防災訓練を行い、地元消防団や家族、民生委員より意見や助言をもらった。初めて防犯講習会も開催した。

長清水地区の夏祭り、南小・南中運動会、南部地区のレクリエーション大会など、地区回覧板をもとに地域の行事に積極的に参加した。感染症対策委員会で職員の感染症予防呼びかけを工夫して冬期間の予防に取り組み、利用者の二次感染は全くなかった。春と秋の衣替えの時期に合わせて衣料品の出張販売（お買い物イベント）の行事を催し、家族と一緒に楽しめる機会を作った。

5 みゆき会グループ、自治体、他関係機関との連携の推進

かみのやま医療介護施設連携連絡会に参加し、情報交換等行った。居宅介護支援部門で、みゆき会グループ内の連絡会を実施した。みゆき会病院の歯科より訪問診療と定期的に口腔ケアの指導に来てもらった。運営推進会議等の開催により、地域や行政など関係機関との連携を図った。

6 社会福祉法人（施設）としての公益的取組の検討

かみのやまカフェ（認知症カフェ）でさまざまな行事を企画し、認知症を身近に感じてもらえる場所作りに努めた。長清水地区公民館の地区行事に出向き、出張かみのやまカフェを行い健康情報の発信を始めた。この他、地域包括支援センター主催のケアマネ連絡会の開催、また、地域子ども会の樽神輿の披露場所として立ち寄ってもらい、利用者と地域の子供たちとの交流を深めた。納涼祭を開催し、地域の方との交流を図った。地区子供会の資源回収活動へ参加し、協力活動を行った。利用者が自ら作成した雑巾を中学校に寄附し、中学校の吹奏楽部がお返しにコンサートを開いてくれるなど、地域に貢献するアクティビティを意識して取り組んだ。認知症介護の映画「ケアニン」上映会を企画し、小学生から高齢者まで地域から幅広い参加者を得て認知症介護の情報発信が行えた。